

(案)

## 令和3年度市民協働事業提案制度（行政提案型・市民提案型）について

### 1. 令和3年度提案事業

#### ■行政提案型市民協働事業・・・1件

事業名	応募団体名	担当部署名
ラグビー日本代表選手と一緒にスポーツをしよう！ ～ストリートラグビーと講演会～	狛江市ラグビーフットボール協会	社会教育課

#### ■市民提案型市民協働事業・・・1件

事業名	応募団体名	担当部署名
電柱に想定浸水深の位置を表示するプロジェクト	元和泉2・3丁目町会	安心安全課

### 2. プレゼンテーション及び審査会

#### ■実施状況

日時：令和3年8月21日（土） 10時～

会場：防災センター4階会議室

担当：狛江市市民参加と市民協働に関する審議会委員（4名）

### 3. 審査方法・結果

#### ■別紙審査表のとおり

審査にあたっては、下記のとおり設定する審査点（別紙審査表参照）による基準を基に、審議会において総合的に判断した。行政提案型市民協働事業については、②について基準を満たしていないが、市民提案型市民協働事業も含め、条件付きという形で採択が望ましいと考える。

【審査点による基準：①・②両方を満たすこと】

①評価点合計30点の1/2となる15点×審査員数以上

②重点ポイントについては、「寄与する」等4点の部分の部分を基準とし、12点（4点×3審査項目）×審査員数以上

### 4. 総括

今年度についても、新型コロナウイルス感染症拡大状況下ではあったが、行政提案型・市民提案型ともに各1団体からの提案となった。提案事業においては、公益性・具体性等の点でやや不十分な部分もあったが、団体と担当部署との十分な協議、連携により進めていただきたい。また、実施においては新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮するとともに、市民協働が推進されるよう継続的な取組みを期待する。

### 市民協働提案事業 審査表

提案団体名	狛江市ラグビーフットボール協会
提案事業名	ラグビー日本代表選手と一緒にスポーツをしよう！～ストリートラグビーと講演会～

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1. 大変寄与する（6点） 2. 寄与する（4点） 3. あまり寄与しない（2点） 4. 全く寄与しない（0点）	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■スポーツ体験イベント等の企画は、市民のスポーツ活動を促進していくきっかけとなる。また、えきまえ広場等を利用しての実施は、日常的にラグビーを意識していない通りがかりの様々な市民の方々に、自然な形でスポーツの姿を伝えることができる企画ではある。しかしながら「スポーツの裾野を広げる」というまでの不特定多数の人にアピールできるかは難しい。 ■事業への参加見込み人数が150人程度というのは、公益性が低いように思う。また、実施計画書には障がい者スポーツについての記載があるもののこれまでの障がいのある方の参加が2名という実績なので、この度の提案では、障がいのある方の参加を増やすための具体的な計画がほしい。 ■ラグビーの好きな人にはこの上ない機会であるが、裾野を広げるといって一般向けにはどうなのか疑問が残る。スポーツイベントの実施は地域交流には大いに寄与すると思うが、地域がどのようなスポーツについての課題を持っているか、その分析がきちんと為されているか、単にコロナ禍で人的交流が不足、できないと言うことだけで「スポーツをしよう」となるか疑問である。 ■コロナ禍で外出することもできなかった人々を、外出を促す良い機会・提案です。しかし、対象が一部に偏っていると史料いたします。	《点数》				
	4	2	4	3	13
					/24

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1. 大変適正である（3点） 2. 適正である（2点） 3. あまり適正でない（1点） 4. 全く適正でない（0点）	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■スポーツイベントとして考えられているが、講演会の内容や対象など具体性に欠ける。一番何をねらってこの企画を立てたのか明確にされていない。市との分担においても資金以外協働の効果が分かり難い。 ■これまでも2回同じようなイベントの実績があるため、役割分担も問題はないと思われる。しかし、実施方法の具体性という点では、ボランティアの育成という視点が書かれているが、当日の手伝いのみとなり、育成するためには企画段階からの参加や、その後の活動への参加を継続できるようなことが必要である。また、若者や障がいのある方の運動不足も視野に入れているのであれば、そのターゲットに対しての具体的な広報手段などがあると良い。 ■えきまえ広場の設置概要など具体的なイメージを示して欲しい。 ■過去に、同様の事業を経験しており、明確かつ適正と判断いたします。	《点数》				
	1	2	3	2	8
					/12

③**実現性**：事業計画は妥当であり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応するなど事業に実現性があるか。

1. 大変実現性がある（3点） 2. 実現性がある（2点） 3. あまり実現性がない（1点） 4. 全く実現性がない（0点）	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■今までのラグビーイベントの実績から、イベントを実現できるノウハウは持っていると思われ。しかし、妥当性という点、予測人数・講演会・ボランティアの育成等など計画自体が過去の踏襲であり、新たな目標をもって計画されているとは言い難い。 ■屋外での計画であり、ストリートラグビーまたは、ウォーキングラグビーへの変更も視野に入れており、コロナ禍での実施は実現性はある。 ■一定程度の人集めは可能と思うので実現可能である。コロナ感染に対する対策をしっかりと欲し。イベントの人数について算出の根拠を示して欲しい。プレゼントのボールの数もこれでよろしいか。 ■人と人との接触が想定され、開催場所に、例えば、たまたま通った人々が参加した場合、密になることが想定できます。完全に、コロナ終息後が好ましいと史料いたします。	《点数》				
	2	2	3	1	8
					/12

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1. 大変効率性がある（3点） 2. 効率性がある（2点） 3. あまり効率性がない（1点） 4. 全く効率性がない（0点）	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■講演会はまだテーマも未定であるが、大枠で過去のイベントの状況から講師謝礼等を見積もっていて、効率の運営があまり意識されていない。ラグビーのスポーツ団体や企業に働きかけ、より経済的かつ効果的に企画できる部分を模索する必要がある。 ■予算に対して、見込み参加人数が150人だと、参加者1人に対して約3,000円支出してイベントを行うこととなり、かなり高額支出のイベントとなりうる。また、謝礼の1人単価50,000円の根拠として、協会の基準や他地域での実績などを調べた数字が欲しい。 ■予算の立て方に大雑把な点が見られるので、しっかりと詳細を詰めるべきであろう。講師謝礼などこれまでの踏襲でよろしいか。 ■謝礼金が予算の半分以上を占めており、再考が必要と史料いたします。	《点数》				
	1	1	2	1	5
					/12

評価点計（15点満点/個人・60点満点/合計） 8点 7点 12点 7点 34点

◆団体について

①★**協働性**：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計
<特記事項> ■市と協働することにより、単なるイベントではなく、様々な立場の市民にスポーツを通じて、体を動かすことの楽しさを伝えることができる。「みる」「ささえる」という点では、市からの広報活動により、聴覚障害者ラグビー協会のコラボも年齢・性別にかかわらず様々な多様性を共に生きる視点で多くの市民にアピールすることができやすくなる。 ■行政が提案しているスポーツ推進と裾野を広げる目的からすると、現状の事業内容ではその日一日のイベントで終わってしまう可能性が高くなってしまい、十分に行政の目的を果たせないように思う。 ■スポーツ団体であるのでスポーツマンシップで協力態勢はできている。 ■粕江高校ラグビー部のボランティア育成（機会の創出）は良いアピールです。実現していただきたい。					《点数》				
					4	0	6	6	16
									/24

②**実施能力**：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1. 大いに持つ（3点） 2. 持つ（2点） 3. あまり持たない（1点） 4. 全く持たない（0点）					A	B	C	D	合計
<特記事項> ■過去のイベント実績や様々な活動から、実施できると思われる。 ■これまでも、2回イベント開催の実績があるので、団体の能力は問題ないと感じる。 ■これまでの実績があるので、実施能力は保持していると考える。 ■過去に「市民まつり」などで問題なく実施・開催されており、問題ないと判断いたしました。					《点数》				
					2	3	3	3	11
									/12

③★**発展性**：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計
<特記事項> ■現状の企画内容では、一過性のイベントで終わってしまいそうであり、今後につなぐ具体的企画をしっかりと考えていく必要がある。 ■参加見込みが150人との点から、今後の発展を望むには、もう少し何か内容に追加する必要があるのではないかとと思う。 ■ラグビーについての教室の実施などさまざまに試みられているので、さらにストリートラグビーについても継続的な試みが必要になろう。 ■他の事業体を巻き込み、事業を進めることは団体の発展に寄与すると思料いたします。					《点数》				
					2	2	4	4	12
									/24

評価点計（15点満点/個人・60点満点/合計） **8点 5点 13点 13点 39点**

評価点全合計（30点満点/個人） **16点 12点 25点 20点**

うち重点ポイント（★）合計（18点満点/個人） **10点 4点 14点 13点**

**【審査結果】 事業内容の一部見直しを条件に採択することが望ましい**

本事業は、激しいスポーツのイメージがあるラグビーの中でも「ストリートラグビー」という参加しやすい内容で、えきまえ広場というオープンな場で実施することにより、通りがかりの様々な市民の方へもアピールすることができ、また、団体の実績を活かすことのできる実現性の高いものである。

行政が提示した「市民のスポーツ活動を促進し、スポーツの裾野を広げるための取組」という点から、講演テーマ、事業への参加見込数を含めたターゲットや団体の本事業の狙いを明確化し、また、一過性の事業とならないよう、将来的な普及を見込んだ企画を行政とより具体的に検討した上で事業を進めていただきたい。併せて、本事業の趣旨を踏まえ協力団体等と調整し、講師謝礼等の予算については整理していただきたい。

協働性については、行政だけではなく、ボランティア育成という点においても、企画段階から粕江高校ラグビー部と一緒に進めていくことを期待する。

評価点 **73点 /120点**

※基準点 60点

うち重点ポイント **41点 /72点**

※基準点：48点

市民協働提案事業 審査表

提案団体名	元和泉2・3丁目町会
提案事業名	電柱に想定浸水深の位置を表示するプロジェクト

◆事業について

①★**公益性**：提案事業は、地域社会の発展又は地域課題の解決に寄与するものであるか。また、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであるか。

1. 大変寄与する(6点) 2. 寄与する(4点) 3. あまり寄与しない(2点) 4. 全く寄与しない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■地域の水害の想定状況を可視化することで日常的に住民が意識できる。取組みの視点は地域の課題に寄与するものと評価できる。 ■地域課題の解決には、とても役立つ事業内容だと思われるが、町会に向けて行うことが事業のベースのため、もう少し市民全体に向けた内容となると、協働事業として相応しい物になる。 ■防災体制の充実が市の政策の最重要事項であるので、公益性は大いにある。特に、最近の天候不順の中では喫緊の事業である。しかしながら元和泉という限定された地域であるので、それをどのように全市民的な事業につなげることができるかが今後の問題点であろう。 ■防災への気付き、見える化、心掛けなど、有意義な提案。ただし、モニターとはいえ一部の町会だけに特化するのには公共・公益性に欠けると思料いたします。	《点数》				
	4	2	6	3	15
					/24

②**具体性**：事業内容や実施方法に具体性があり、市と団体の役割分担が明確かつ適正か。

1. 大変適正である(3点) 2. 適正である(2点) 3. あまり適正でない(1点) 4. 全く適正でない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■事業内容や実施方法は具体的ではあるが、町会だけの視点に留まっており、担当課との協働の意味が明確でない。(例：表示電信柱の本数や防災セミナー講演会の内容及び対象者の設定等)また、モデル事業の意味もあると考えられるが、市全体に広めていくにあたって担当課と意識のずれがないかどうか確認する必要がある。 ■エリアの広さに対して、設置電柱の本数が効果を検証する上で妥当か。担当課と協議し直し、市全体にとっての公益性のある形に変更も検討して頂きたい。また、防災セミナーの内容の具体性がもう少し必要ではないか。 ■電柱に表示するというのは実施面では明確であり簡便であろう。東京電力との話し合いは今後の課題である。ただし、もっと市民に日常の中で見える形で認識させる方法については一考の余地はある。 ■実施方法が明確になっており、また、役割分担は明確になっていると判断いたします。	《点数》				
	1	1	3	3	8
					/12

③**実現性**：事業計画は妥当であり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応するなど事業に実現性があるか。

1. 大変実現性がある(3点) 2. 実現性がある(2点) 3. あまり実現性がない(1点) 4. 全く実現性がない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■電信柱を使って、避難につながる行動を促す意味では実現性があり、東京電力への打診も行っている(高さ・経費等)ようであり、実現性はあると思われる。 ■防災セミナーの内容を、今後どのように感染対策をとって行うのかなども、しっかり検討する必要があるが、電柱に設置する内容に関しては、特段問題ないと思う。 ■元和泉2・3丁目20本というのはどのような算出基準なのか。表示後の検証に住民の協力が必要であるので、町会としての努力は必須。 ■コロナの有無に関係のない事業と判断いたします。	《点数》				
	2	2	2	3	9
					/12

④**効率性**：収支予算は妥当であり、事業に効率性があるか。

1. 大変効率性がある(3点) 2. 効率性がある(2点) 3. あまり効率性がない(1点) 4. 全く効率性がない(0点)	A	B	C	D	合計
<特記事項> ■電柱1本当たりの設置費用は計算されており、作業経費として必要経費は算出されている。しかし、実施本数に関しては本数が曖昧であり、(掲示する20本が2町会のみとしているが現状では8本しかなく、残り12本は新たな基本掲示版もつけないとてはならないし、広域で+12本なのか不明)明確ではない。 ■内容があまり決まっていない防災セミナーの予算と事業効率が妥当かは、実際わからない。また、浸水深表示が電柱の上部に赤い線だけ付ける予算になっており、想定浸水深のプレート設置の予算が必要ないのかを担当課と協議し、検討し直す必要を感じます。 ■セミナーのより詳細な実施要領の提示、講師謝礼については根拠資料が求められるであろう。 ■新たに「想定浸水深」板を設置しない、現在の「想定浸水深」板に対しての設置を前提に妥当と判断いたします。	《点数》				
	2	2	2	3	9
					/12

評価点計(15点満点/個人・60点満点/合計)

9点	7点	13点	12点	41点
----	----	-----	-----	-----

◆団体について

①★協働性：団体と市が協働することによって、さらなる効果が期待できる事業であるか。また、それぞれの強みを活かし、対等な立場で実施できる事業であるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計	
<特記事項> ■公道を使つての避難行動を判断するための可視化に役立つ提案であり、モデル事業として協働の意味はある。あくまでも市内のある地域のモデルということでは検証していくためのアンケートの実施や検証が大切であるが、この部分での分担等はまだ明確ではない。 ■町会でのアンケートからの動き出して、市民目線の内容はとても良い。しかし、市と協働する場合の効果は、市全体への還元が必要となるため、どのような規模で行い、どのような範囲でアンケート調査し検証をするかが重要。きちんとした効果が出せる、アンケート調査の検証方法を担当課としっかり協議する必要がある。 ■市との役割分担は明確と考えるので、実施は可能である。 ■一部の町会だけではなく、狛江市全体で実施ということに効果があると期待しています。					《点数》				16	/24
					4	4	4	4		

②実施能力：提案団体は、提案事業を実施する能力を持つか。

1. 大いに持つ（3点） 2. 持つ（2点） 3. あまり持たない（1点） 4. 全く持たない（0点）					A	B	C	D	合計	
<特記事項> ■町会の執行部（町会長等3役）は積極的に推進していく能力はある。ただ、町会に参加していない世帯もとても多い現状であり、町会内だけでもアンケート調査の実施等、広報を徹底して、多くの住民に関心を持ってもらう必要がある。 ■担当課と協議した上で、事業の規模などが変わることもあると思うが、市との役割分担をすることにより、可能と思われる。 ■町会が、町全体を把握しているかどうか、多少の疑念はあるが、その土地に住む者の強みを活かしていただければよい。同時に住民がこの提案にしっかりと興味と理解を持つかが実施の鍵となる。 ■町会での実施と、市と協働事業ではないと思料いたします。					《点数》				7	/12
					2	2	2	1		

③★発展性：事業内容は、現状の団体の活動内容から発展性が見られるか。また、提案事業を実施することにより、団体の活動に発展が期待できるか。

1. 大変期待できる（6点） 2. 期待できる（4点） 3. あまり期待できない（2点） 4. 全く期待できない（0点）					A	B	C	D	合計	
<特記事項> ■町会の中のことだけではなく、今後市全体の避難意識の醸成に役立つ面を持っている。 ■一つの町会からの動きが街の動きとなる実績を作れることは、他の町会に向けても今後の動きの参考になると思う。団体にとっても、市と協力する事業の実施は、今後も防災の企画などに発展させることができるのではないかと。 ■一部地域の提案を、全市的な政策に上げることができかが地域貢献への道である。狛江市がこの事業の問題意識を共有できるか。継続的な防災セミナーは市民生活にとっての基本であり、市の安心安全の要である。また、この提案をきっかけにして住民相互の繋がりを強固なものにすることができよう。 ■町会が結束、一つの提案をすることに、町会の自治能力向上に寄与することに期待いたします。					《点数》				20	/24
					4	4	6	6		

評価点計（15点満点/個人・60点満点/合計） **10点 10点 12点 11点 43点**

評価点全合計（30点満点/個人） **19点 17点 25点 23点**

うち重点ポイント（★）合計（18点満点/個人） **12点 10点 16点 13点**

【審査結果】 **事業内容の一部見直しを条件に採択することが望ましい**

本事業は、2019年の台風災害後に団体において実施したアンケート結果を契機として企画されており、防災体制の充実という点において、地域の水害の想定状況を可視化することによる住民への意識付けは、地域課題の解決に寄与するものである。

公益性については、表示を予定している20本の根拠や効果測定にあたっての本数の妥当性等精査のうえ事業を進めていただきたい。また、本事業が市全域に対してのモデルケースとなるよう、一部の地域に限らず、市全域を対象とした試行による効果測定の進め方等具体的に担当部署と協議のうえ実施していただきたい。

団体からの提案が、まちの動きとなる実績に繋がることは、他の団体に向けても今後の動きの参考となることが期待でき、市全体の避難意識の醸成に役立つものと期待する。

評価点 **84点 /120点**  
※基準点 60点

うち重点ポイント **51点 /72点**  
※基準点：48点

## 市民協働提案事業 審査表

### ★特記事項

#### 【狛江市ラグビーフットボール協会】

■ラグビーフットボール協会として、過去にイベントにおける市との実績もあり、協会団体として企画を遂行していくことはできると思われる。しかし、今回のイベントそのものが市民の方々のどのようなことを伝えたいのか、このイベントをきっかけに、そのあとどのような活動を通してスポーツの裾野を広げたいのか明確になっていない。

■ラグビー普及のための活動を、毎年行おうとしている努力はとても素晴らしく、これからもがんばって頂きたい。

■計画書には、人、物、資金などについての根拠資料を添付すべきである。

■見積りの見直し（謝礼金の減額：例えば謝礼金を0円で実施できないか）・狛江高校ラグビー部のボランティア活動の機会創出、当事者への巻き込み方法の明確化

#### 【元和泉2・3丁目町会】

■提案そのものは、避難行動を判断するハザードを可視化する意味で、市との協働していく事業として意味がある。2つの町会とも、表示電柱もアンケート調査も防災セミナーも基本町内会の中だけで考えているが、実際には町会に加入している世帯も減少傾向にあり、協働事業として取り組む以上、広がりをもって地域住民に働きかける視点が必要である。

■全電柱の本数に対して、現在の表示設置本数は8本なので、提案の20本は妥当なのか。防災意識について、危機感を市と共有できるか。検証をどのように進めるのか、それにより、成果の出し方にも関係する。

■公益・公共性の観点から、一部町会での実施ではなく、市全体の事業となれば良いと思料いたします。（担当課との再調整が必要）効果は、調布市の実施から、測定できると思料いたします。



★指摘すること・注意点・課題等

【狛江市ラグビーフットボール協会】

■このイベントを通じて、市民に何を伝えたいのかわかりやすくしてほしい。講演会のテーマや中心となるターゲットの明確化。（広報の具体化）聴覚障害者ラグビー連盟とのコラボのねらい。運営費における講師謝礼の根拠や協力金や各スポンサー等の開拓による活動の広がり。狛江高校ボランティアなど若者の参画機会の拡充、活かし方など、担当課と具体的に企画を検討することにより、行政提案の主旨（市民のスポーツ活動の促進と裾野を広げる）がより具体的になるのではないかと思います。特にイベント後この活動をきっかけにどのような広がりを考えているのかイメージしてほしい。

■市との協働で事業を行うということは、公共性がとても重要となるため、市民全てをターゲットとしているにも関わらず、1ゲームで参加できる人数が少なく、イベントの参加可能な人数が少なくなってしまうのは大きな課題と思われる。ゆえに、ストリートラグビーを、市民に普及して日常的なスポーツとして発展させていくには、例えば、この日一日で終わらせずに全小学校を回り体験する機会を作ったり、障がいのある方と小学生にターゲットを絞るなど、将来的な普及見込みとして行う形もあるのではないかと。

■企画に新鮮さがあるか。このような企画は多くの地域において実施されている。その目的は当該スポーツの普及、認知度の向上などがほとんどで地域の発展にどの程度寄与するものか不安である。一時的なお遊びに終わらないように、事前のアナウンス、広報でイベントの目的を参加者に周知し、何をこのイベントから学んで欲しいか、しっかりと目的意識を持って参加するように伝えるべきである。

■見積りの見直し（謝礼金の減額：例えば謝礼金を0円で実施できないか）・狛江高校ラグビー部のボランティア活動の機会創出、当事者への巻き込み方法の明確化

【元和泉2・3丁目町会】

■実際にはモデル事業としての位置づけになると思われるので、計画している20本の表示電柱をどのように決定していくのか、地域（2町内だけなのか、その周辺を含むのか等）効果を見るための立地条件の具体化、検証方法のアンケート対象・内容等の明確化、防災セミナーの対象・内容・講師の予算等の具体化など、担当課とより具体的にかつ、今後につながる方法を検討したうえで、実施に移る必要がある。また、調布市の先行事例もあるとのことなので、その検証結果等も参考にしながら、取り組みに生かされると尚よいと思われる。

■協働事業であるため、市全体にとって利益のある事業にすることが課題と思われる。今後、市全域に対しての設置の可能性に向けたモデルケースとする場合、しっかりした検証が必要になる。そのため、1つの町会エリアのみでの実施では、本数やアンケート対象人数が少なくなるため、例えば、3つ程度の町会と合同で実施するなどし、アンケート調査の信憑性が高くなるような調査・検証方法を行って頂きたい。

■市との事前相談において意思疎通が明確にできていたか、大いに疑問であるので、認識の相違がないように、今後はしっかりと詰めて欲しい。町会に参加していない住民に対してどのような説明をしていくのか。それは将来にわたっての町会と住民との親睦、住民相互の信頼関係に繋がると考える。

■公益・公共性の観点から、一部町会での実施ではなく、市全体の事業となれば良いと思料いたします。（担当課との再調整が必要）効果は、調布市の実施から、測定できると思料いたします。